

おざわけ かのんぐん 小澤家観音群

平成 18 年 4 月 1 日 八潮市指定有形文化財（歴史資料）
個人蔵

小澤家墓地内に建つ観音堂には、木造観音菩薩像 100 躯が安置されている。家伝によると、西袋を開発した小澤家初代の作右衛門重録が、西国・坂東・秩父の百観音を巡礼した後、明暦 2 年（1656）に観音堂を建立して、100 躯の観音菩薩像を祀ったとされる。観音堂と観音菩薩像は、小澤一族によって大切に守られ続け、幾度かの修復や再建などを経て、現在にいたっている。

現存する観音菩薩像と主尊の阿弥陀如来像は、

一木造り、彫眼、全身には金泥が施され、作風から江戸時代後期の作と推定される。堂内には、初代作右衛門重録が奉納した明暦 2 年（1656）銘の花 瓶、5 代平右衛門真昉が寄進した鰐口、9 代平右衛門豊功が奉納した大金などがあり、人々に厚く信仰されてきたことがうかがえる。

民間の中で信仰されてきた百観音の造像は、県下でも非常に珍しく近世期における民間信仰の姿を今に伝える。



◎公開の有無：非公開